

米国医療におけるアカウンタビリティの概念と動向

堀 真奈美*

(慶應義塾大学政策・メディア大学院)

印南 一路*

(慶應義塾大学政策・メディア大学院助教授)

[要約]

医療過誤事件などを背景として、医療に対する不信は大きい。医療に対する不信を払拭するには、医療に関する説明責任、すなわちアカウンタビリティを高めることが必要である。

本稿は、米国の医療システムにおけるアカウンタビリティ論を中心にして、混乱が生じているアカウンタビリティ概念の整理を行った。まず、医療 (Healthcare) におけるアカウンタビリティが求められた時代背景を検討し、次にプロフェッショナル・モデル、経済モデル、政治モデルの3つのアカウンタビリティ・モデルを比較考察した。もちろん、米国のアカウンタビリティ・モデルは米国固有の医療システムを前提にしており、必ずしも日本にそのまま当てはまるわけではない。しかし、アカウンタビリティ論が主張された背景の多くは、近時の日本の医療システムにもあてはまっており、米国のアカウンタビリティに関する議論は、日本におけるアカウンタビリティ論を考える上で参考になるであろう。

*慶應義塾大学法学部政治学科卒業。慶應義塾大学政策・メディア研究科後期博士課程在籍。 E-mail: manamih@sfc.keio.ac.jp

*東京大学法学部卒業。ハーバード大学行政大学院を経てシカゴ大学経営大学院で PhD 取得、シカゴ大学助教授を経て、現職。 E-mail: zion@sfc.keio.ac.jp